

事務事業名		野生鳥獣共存の森整備事業		☐ 実施計画掲載事業 ☐ 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	
	施策名	02 地域特性を生かした農林業の振興			
	基本事業名	04 林業の活性化		単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目	
所 属	部課名	農林水産部農林課		会計	款
	課長名	菅原 博幸		項	目
	係 名	林業係	電話	27-3111	事業
	担当者	鈴木 林	内線	7126	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		私有林の造林地をシカの被害から保護し健全な森林を育成するため、気仙地方森林組合が私有林所有者から受託して行う国県補助事業に該当する緩衝施設設置及び忌避材の散布、塗布の費用に、予算の範囲内で上乗せ助成する事業。このことにより、森林の造成・施業が促進され、良質材の生産が増え、林業の採算性が向上することにより林業の活性化を図る。 主な業務内容は、①補助金交付申請受付、②交付決定、③完了確認、④補助金交付である。 事業費は、補助金として支出される。		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 緩衝施設設置距離 m	
緩衝施設設置(シカ防護網の設置)。		イ	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
緩衝施設設置(シカ防護網の設置)。			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
新しく植栽した私有林		名称 単位	
		カ 私有林の新植面積 ha	
		キ	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
新植された苗木が、シカの被害から守られる。		名称 単位	
		サ 緩衝施設設置面積 ha	
		シ	
		ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
安定して林業を営む。			

(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	800	427	600	574	600	600
			事業費計 (A)	千 円	800	427	600	574	600	600
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1					
		延べ業務時間	時 間	180	90	120	120	120	120	
		人件費計 (B)	千 円	720	360	480	480	480	480	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	1,520	787	1,080	1,054	1,080	1,080	
⑤活動指標			ア	m	2,280	930	1,298	1,217	1,238	1,300
			イ							
			ウ							
⑥対象指標			カ	ha	5.1	1.81	2.35	1.55	2.0	2.5
			キ							
			ク							
⑦成果指標			サ	ha	5.1	1.81	2.35	1.55	2.0	2.5
			シ							
			ス							

事務事業ID	0580	事務事業名	野生鳥獣共存の森整備事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
植栽直後にシカによる被害を受け、全滅する植栽地が出てきた。植栽した苗木をシカ被害から守り、豊かな森林資源の造成と、森林の持つ公益的機能の更なる発揮を図っていくために当事業が開始された。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
依然として、シカの被害があり、事業の継続やシカの駆除が求められている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
シカの被害から植栽地を守るには、緩衝施設の設置が有効であることから事業の継続が強く求められている。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	植栽した苗木を守らなければ、森林の公益的機能はもとより、森林所有者の森林経営意欲の減退へとつながり、林業の振興に著しく悪影響が生じる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	緩衝施設設置に対して嵩上げ補助することにより、シカの被害を防ぐための森林所有者の負担を軽減し、森林資源の循環利用を促進することにより、林業の振興が図られる。また、森林の持っている公益的機能を維持することは、市民生活全体につながるため。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	植栽後すぐに緩衝施設を設置しなければシカの被害を受けるため、対象は植栽した場所に限定される。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	継続的な事業の実施が成果の維持につながる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	当事業の廃止・休止することで、シカの被害により森林が荒廃し、森林所有者の生産意欲の後退及び森林の公益的機能が低下することが容易に予測されることから。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	シカによる植栽被害の防止は、緩衝施設の設置が最も有効であるため、現状では削減できない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	職員の業務時間は、補助金交付事務(申請受付・現地確認・交付)であり削減の余地がない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	シカ被害防止対策の一環であり、受益者負担を幾らかでも軽減し森林資源の循環を図っていく必要があるため。また、森林の公益的・多面的機能の恩恵は、市民全員が受けているため。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 現状どおり継続して事業を実施する。		

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	現状どおり継続して事業を実施する。